

自己評価				
学校運営計画 (4月)				評価 (総合)
学校運営方針	校訓「立志・錬磨・不愧」に基づき、うきは市唯一の県立高校として、地域の発展と充実のために貢献するとともに、さらには全国、世界で活躍しようとする意欲と能力、行動力を持ったグローバル人材を育成する。			
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
昨年度までの2年間は学び合いを通じた授業改善を行ってきたが、今年度は「新たな学び(主体的、対話的で深い学び)」の実践を通して授業改善と確かな学力の一層の進展を図る。また、ICT機器の効果的活用を図り、生徒の学力向上に寄与できるよう力を注ぐ。 また、昨年度は、本校生徒の姿を地域に発信する取り組みを強化したことで、地域からの評価も高まっており、生徒自身の自尊感情や主体性の高まりにも繋がった。今年度も究真館三原則の遵守や、本校独自の文化を大切に継承することで、自尊感情や奉仕の精神などの豊かな人間性の涵養を推進していく。 進路指導では、入試情報や求人情報を的確に提供することで、生徒は希望進路を達成できた。今年度は、さらにキャリア教育を充実させ、生徒の職業観や探究心の育成を図る。また、そのことを通じて、高い志を持たせ、自己実現に向かわせる。	「高い志」の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育(職業観の育成、在り方・生き方の探求、探究心の育成)の推進 ・クラス担任とチューターによる丁寧な進路ガイダンス ・学系に応じた資格取得の奨励 		
	「確かな学力」の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・AL(「主体的、対話的で深い学び」)の実践を通じた授業改善の推進 ・生徒の理解を助けるICT機器の適切かつ積極的活用 ・アダプティブラーニングの研究を通じた、「個」に応じた指導の推進 ・「指導」と「評価」の一体化を目標とした適切な評価法の確立 		
	「豊かな人間性」の育成	<ul style="list-style-type: none"> ◎究真館三原則の徹底(「時を守り 場を清め 礼を正す」) ・互いを認め、いじめや差別を絶対に許さない人権意識の涵養 ・達成感を味わい、自信や誇り・愛校心を育む学校行事の運営 ・生徒が主体的に取り組む生徒会活動や部活動の推進 ・地域等と連携した「総合的な探究の時間」や学校行事の推進 ・社会に貢献する奉仕の心を育むボランティア活動参加の奨励 ・交通安全教育の充実 		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
学習指導	授業規律の確立	黙想指導や挨拶を徹底する。 出席率97%以上、遅刻率2%以下を目指す。 学年、他分掌との連携を深め、チャイム席を徹底させる。		
	「わかる」授業を追求するための授業改革	主体的、対話的で深い学びの実践を通じて授業改善を行う。 電子黒板やICT機器を積極的に活用し、授業効率を向上させる。 「指導」と「評価」の一体化を目指す「適切な評価法」を確立させる。		
	基礎学力の定着	Classiを活用して家庭学習時間調査を行い、生徒の状況を正確に把握し、学習習慣の定着を図る。 生徒の特性に応じた指導を促進するためにClassiを活用する。 考査の事前指導や学習相談会の実施、長期休業中の補習を通して力をつけさせる。		
生徒指導	いじめや差別を許さない人権意識の涵養	いじめアンケートや面談を通して生徒のメッセージや変化を捉え、いじめ防止対策委員会を中心に組織的に対応する。 外部講師による講演会や人権教育授業を通して、SNSの正しい使い方やトラブル等の防止、人権意識の涵養に努める。 生徒会を中心にいじめ防止に向けた取組を推進する。		
	生徒が主体的に取り組む生徒会活動の推進	マナーアップキャンペーンを通して、各種委員会の活性化を図り、生徒一人一人の自己有用感を高める。 学校行事では自信や誇り、愛校心を育むよう生徒会を中心に企画・運営を行う。 ボランティア活動を推奨し、地域に貢献する奉仕の心を育成する。		
	交通事故0のための交通安全教育の充実	外部講師による交通安全講話を実施し、交通安全の意識向上を図る。 警察署と連携し、バイク通学者に対して交通安全講話や実技講習を実施する。 PTAとの挨拶運動を通して、交通ルールやマナーについて注意喚起を行う。		
進路指導	進路実現100%を目指す	進路希望調査を年2回行うことで生徒の希望進路を把握し、クラス担任などによる進路ガイダンスを実施する。 入試情報・求人情報などを収集・分析し、的確な進路指導を行う。		
	キャリア教育を推進する	総合的な探究の時間を活用し、進路学習や課題研究の取り組みを充実させる。 キャリアパスポートを活用し、活動の記録や振り返りを行い、自己の生き方や進路を考えさせる。		
	進路に沿った学習時間の増加に努める	課外授業・土曜チャレンジセミナー・校外模試などの学習機会を計画的に運営し、学習意欲の向上を図る。 クラウド学習支援サービスなどを活用し、模試分析や生徒の特性に応じた個別最適化の指導を推進する。		

学校関係者評価	
評価 (総合)	自己評価は
	A 適切である B 概ね適切である C やや不適切である D 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
研修	職員の授業力の向上と、生徒が学ぼうとする力の向上	すべての生徒が50分学び続けることができる、質の高い授業づくりに取り組む。 公開授業や授業づくりのための職員研修を行い、授業力を高める。		
	ニーズに応じた職員研修の実施	各分掌と連携し、本校の課題に即した研修(年3回)を計画する。 教育センターの研修など、校外の研修への参加を推進する。		
	図書館の活用促進と読書習慣の確立	朝読書の徹底や、書籍・図書館に関する情報発信を行い、生徒や職員の図書館の利用を推進する。 読書週間の校内放送での本の紹介や読み聞かせ、図書館便りの発行などを通して、図書委員会の活動の活性化を図る。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
庶務	式典・儀式の計画及び庶務関係行事を円滑に実施する。	式典・儀式や行事は、関係部署との連絡調整を密にし、一か月前を目途に計画する。 行事要項を速やかに作成し、職員に周知100%を心掛ける。 消防署と連携し、防災避難訓練を11月に実施する。		
	丁寧かつ正確に諸務を実施する。	教育必携、学校要覧、新入生のしおりを計画的かつ正確に作成し管理する。 年度当初の職員連絡網、日直当番割などを正確かつ速やかに作成する。 各種奨学金等の情報を生徒、保護者に、確実に周知する。		
	PTA役員、同窓会理事と協力して諸行事を成功させる。	PTA役員との連絡を密にし、PTA活動の活性化を図る。 PTA活動を広く発信し、各種行事への参加拡大を図る。 同窓会行事への開催協力を行い、育英会奨学生の選考、激励等、適切に実施する。		
学校活性化推進	中学校等訪問の充実	中学校等へのアピールポイントを明確にし、職員が共有する。 訪問先の中学校等からの声をふまえて持参資料等を工夫する。		
	生き生きとした生徒の姿を発信する	ホームページやSNSの内容をよりタイムリーにより効果的に掲載する。 体験入学等の準備を計画的に行い、中学生や保護者に本校の魅力を伝える。		
	地域と根差した活動の充実	地域と連携した事業等を推進する。 スポーツを通しての「小・中・社会体育連携活動」を充実させる。		
保健環境	健康教育活動の推進	定期健康診断を計画的に実施し、健康の保持増進に努める。 健康相談を適宜実施し、諸行事における事故を未然に防止する。 性と心の相談事業(教育講演会を含む)を各1回以上実施する。 運動会や諸行事における新型コロナウイルス感染症・熱中症対策に取り組む。		
	環境美化意識の向上	美化コンクールを実施し、生徒の美化意識の向上を図る。 ゴミの散乱防止や美化意識向上に関する情報発信に努める。 定期的に美化活動や清掃点検活動等を行い、学習環境を整える。		
	教育相談委員会の定期開催を主軸とした、全職員での組織的な対応	不登校やいじめ問題等の未然防止や早期解決を目指し、教育相談委員会を開催する。 教育相談に関する情報を対象生徒の学年だけでなく全職員で共有し、組織的な対応を図る。 問題解決に向け、専門医の受診やスクールカウンセラーとの連携を図るため、窓口としての機能を果たす。		
情報管理	校務用ネットワークの円滑な活用と運営	新しい校務用パソコンのトラブル対応やソフトウェアの管理業務を確実に行う。 校務用パソコンの利便性とセキュリティの向上を考慮し各教科や分掌からの要望に可能な限りこたえる。 共有や教材のドライブの整理や容量の管理を定期的に行う。		
	電子黒板・タブレットの整備と管理	電子黒板・プロジェクターなど各教科や分掌からの要望に可能な限りこたえ利便性を向上させる。 無線LANの整備を受けタブレットやChromebookの整備や利用促進を行う。 TeamsとOneDriveなどの利用促進。		
	リモート機器の整備と管理	校内行事でのリモート配信の利便性を高めるため、機器の整備を行う。 iPhoneやChromebookのLTE機器の整備や管理を行いコロナ対策に備える。 Zoomを利用した研修会などのためにパソコンやカメラなどの機器の整備を行う。		

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
1年	生徒の自己理解と相互理解	面談・キャリアパスポートなどを活用する。		
		委員会活動や行事、部活などの個々に応じた活躍の場を設定する。		
		ボランティア活動などを紹介し参加を奨励する。		
	基礎学力の定着	ICT教材やClassiを用いて、生徒に応じた指導をする。		
		家庭学習を定着させる。		
		英検、漢検などの各種検定の最低1回の受験を奨励する。		
	基本的な生活習慣の確立	学校生活の中で究真館三原則を意識させる。		
		出席皆勤者40名以上を目指す。		
		生活態度・服装頭髪指導などに関する情報を教員間で共有する。		
2年	基礎学力の定着	家庭学習(予習・復習)の習慣を身に付けさせる。		
		目標を設定させ、その達成が80%以上となるように確認や評価を面談等で行う。		
	基本的な生活習慣の確立	究真館三原則の徹底を意識した学校生活を送らせる。		
		年間出席皆勤者50名以上を目指す、生活のリズムを確立させる。		
	進路表現に向けた意識の高揚	インターンシップやオープンキャンパスへの参加を奨励し、検定資格の取得を推進する。		
		面談を通して、具体的な進路目標を設定させる。		
3年	希望進路実現100%を目指す	担任・チューターによる個人面談の実施。		
		授業・課外での基礎学力の定着。		
		面接指導・志望理由書指導を通して、自己理解を深め自己表現力を伸ばす。		
	学びの質の向上による学習意欲の涵養	各種資格取得の奨励。		
		授業においてICT利用を促進し、理解を助ける。		
		アダプティブ・ラーニングの推進。		
	人間力の育成	ボランティア活動への参加奨励。		
		元気な挨拶をできるようにする。		
		時間厳守の徹底。		

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

評価項目以外のものに関する意見